

「子どもに本を届ける人のために」

＝自然の魅力！絵本の魅力！＝

講師 高柳 芳恵氏

## 《プログラム内容》

10:00～12:00

《1》身近なところに「ふしぎ」はいっぱい。

「おどろく」気持ちを大切に。

(例1)・ウラギンシジミ蝶の誕生から羽化までの考察

(例2)・どんぐりの穴についての考察⇒

シギゾウムシについて

《2》子どもの好奇心とまわりの大人の対応

(例)・ハイイロチョッキリについての考察

《3》1冊の絵本から、好奇心をひろげていく。

・柳の枝から絵本の世界へ。

《4》絵本の中に不思議を見つけ、たしかめることの面白さ

・科学絵本⇒その本だけで終わらない工夫をすること。

《5》読み比べから思うこと

(例) カマキリの絵本を読み比べて

・写真家の視点からみた科学絵本について

・カメラ技術の向上の功罪…虫眼鏡の世界をリアルのみせることについて

・こどもの疑問を基に調べた科学絵本⇒納得しながら読み進めることができる。

## ◎紹介して頂いた科学絵本の一部

	題名	作者	出版社
1	葉の裏で冬を生きぬくチョウ	高柳芳恵	偕成社
2	どんぐりの穴のひみつ	高柳芳恵	偕成社
3	どんぐりをおとしたのはだれ？	高柳芳恵	福音館
4	どんぐりころちゃん	みなみじゅんこ	アリス館
5	おどりトラ	金森襄作	福音館
6	ミオよ、わたしのミオ	リンドグレーン	岩波書店
7	セミたちの夏	筒井学	小学館
8	162ひきのカマキリたち	得田之久	福音館
9	100年前の女の子	船曳由美	講談社
10	セミ観察記	佐藤信治	農山漁村文化教会
11	カマキリ観察記	佐藤信治	農山漁村文化教会



★宇都宮は、初心者からベテランに至るまでボランティアの層が厚いが、活動年数に関わらず、非常に満足度の高い講座であった。また、今回は小中学生の子どもを持つ30-40代の母親の参加も目立った。

高柳講師の活動の原点には、子どもたちからの素朴な問いかけから始まっている。子どもたちが疑問に思ったことを地道に考察し、丁寧に時間をかけて解決していく姿勢には頭が下がる思いだ。子どもたちは生き物と同じフラットな目線と精神をもっているからこそ、科学絵本もただたんに「面白かった！」だけで終わらせず、内なる好奇心を引き出すことが大切であることを実感した。講座終了後も、参加者の方々と講師との話は尽きず、たくさん科学絵本が貸し出されることとなった。参加者にとって、発見と気づきの多い有意義な講座だったと思う。

